

# 【UD 関西・研究会レポート】第19回研究会

記録者：白石 晴子

■2.22（土）関西学院初等部にて『第19回UD研究会 in 関西』が開催されました。今回初めての試みで、公開授業2本、ワークショップ2本を行いました。約200名の先生方がご参加下さいました。今回は通常比定員が多く、初めての先生も含めたくさんの方にUD研究会 in 関西にご参加いただきました。ありがとうございました。

## 【①公開授業】

■関西学院初等部の元山一則先生による、4年生の国語科授業でした。学習材は『ウナギのなぞを追って』。説明文であると同時に、筆者の読者を引き付ける文章が印象的なノンフィクションドラマです。うなぎの赤ちゃんであるレプトセファルスをとるまでの様子が実にドラマチックに描かれています。



なぜドラマチックに感じるか、それは読者を引き付ける表現技法がそうさせていると考えられます。巧みに使われている接続詞や文末表現の工夫、説明文ではあまり見られない情景描写などの筆者の書き方の特徴に気付くことを本時のねらいとして授業を展開されました。



まず、⑨⑩段落のつぶやき読みを行います。一文ごとに「何だろう。」「長い期間だね。」「よかったね。」など子どもたちの素直なつぶやきがでます。その後、元山先生が段落の要点をまとめたリライト文を提示します。「これでいいよね。」と尋ねる先生に「すっきりしすぎだよ。」「筆者の苦勞が伝わりにくいよ。」「おもしろくない。」と子どもたちが筆者の工夫のよさを語り始めます。

「先生の文より本文の方が〇〇だ。だって〇〇だからだ。」と、どの子も書きやすいワークシート等を取り入れながら、全員で筆者が伝えたかったことを考えました。全員が「わかる・できる」授業を創るために、「共有化」「視覚化」「焦点化」を念頭に置かれた、素晴らしい授業でした。

## 【②研究協議会】

■授業者の元山一則先生（関西学院初等部）、パネリストとして石塚謙二先生（大阪府豊能町教育長）野村真一先生（関西学院初等部）をお迎えし、授業協議会を行いました。

まず、元山先生の授業説明からスタートしました。だれもが「わかる・できる」授業には、学級のあたたかさが必要不可欠です。子どもたち全員が安心して授業に参加している様子から、元山先生の学級経営のよさが話題に挙がりました。

本時では、授業の最後に学習したことを音読で表しました。しかし、子ども達は本時の学習内容は理解していたものの、それらを音読に繋げることに難しさがありました。そのことから、読解を音読で表すということは、普段から音読のトレーニングをする必要があるということや、他の手段があったのではないかということが話し合われました。

また、まとめの必要性についても話題にあがりました。本時では板書で明示化されたまとめがありませんでした。しかしながら、まとめがあると本時の学習を全員で共有する一助になるのではないかという意見もありました。

事実の文の中に筆者の心情がちりばめられているよさに、UD の手法を用いて子どもたち気付かせる授業の提案性の高さ。そして、元山学級のあたたかさを先生方と共有できた協議会となりました。

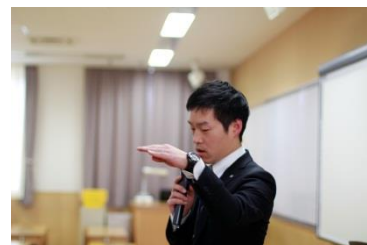
## 【③ワークショップ】

■野村真一先生（関西学院初等部）が『国語授業のユニバーサルデザイン』という題でお話しされました。

「見立てる」という教材を元に、実際の授業のようにワークショップを進められました。あやとりの画像を提示し「これは何に見えますか。自分が見立てたものを隣の先生とお話ししてください。」と野村先生。参加された先生方がペアトークを行うことで、会場全体があたたかい空気になります。子どもたちが喋りたいときにペアトークをさせることで授業が深まることを体験的に学びました。

説明文を題材に、文章を視覚化することで構造が見えてくることや、授業は流すのではなく、大切なところで止めることこそが共有化に繋がることなどを、資料を提示しながらわかりやすく説明されました。

最後に、現在野村学級で行っておられる取り組みについてお話されました。あたたかいクラスをつくるための取り組みから、やはりやさしいクラスをつくることこそが、支援が必要な児童の問題行動を減らすのだと改めて感じました。



#### 【④懇親会】

■本校近くの宝塚ホテルにて、懇親会が行われました。授業者の先生やパネリストの先生をはじめ、いつもより多くの先生方が参加されました。ベテランの先生も若い先生も「明日の授業作り」の語らいに、熱くなり、親睦を深める時間となりました。

#### 【⑤おわりに】

次の開催は2014年6月28日(土)。関西学院初等部にて西日本大会が行われます。関西の先生だけでなく、山口や沖縄の先生方にも公開授業やワークショップをして頂きます。皆様のご参加をお待ちしております。